

高松市立栗林小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

よく学び よく遊び よく働く 子どもを育てる

「確かな学力の定着」「健やかな心身の育成」「心の豊かさの実践」

【本校の現状と課題】

- 「新体力テストの数値分析の結果」より、長座体前屈、上体起こし、ソフトボール投げ、20mシャトルランの平均数値が県平均と比べて下回っている学年が多かった。
- 1000人以上の児童数に対して運動場の面積が狭く、昼休みは日替わりで運動場を利用しているため、運動時間や場所の確保が難しい。
- 体育の授業でも、体育館を4年生以下は2クラスずつ、運動場では3クラス合同で行う学年もあるため、活動が制限される。

【取組み】

遊ぶ場所の安全確保

- ・体育館や2階、3階テラスを開放して運動を行えるようにする。安全面の配慮として、教員が必ず監視すること。運動は、縄跳び、長縄のみとする。
- ・運動場等での遊ぶ場所が明確になるように、各クラスに「栗っ子運動場の使い方」を配布し、教室に掲示する。また、体力づくり委員会が鬼ごっこエリアとドッジボールエリアの境目にコーンを設置し、視覚支援を行う。

体育備品・クラス配当品の充実

- ・体育館や運動場だけではなく、屋上や中庭に鉄棒やジャンピングボードを置くなどし、体を動かせる環境を作る。
- ・業間休みと昼休みには、ボール倉庫を開放することで、運動場で児童が様々な運動に取り組めるようにする。
- ・柔らかいボール2つ、長縄2本、マーカーコーン6個を各クラスに配布し、外遊びで活用できるようにする。

体力向上プロジェクト

- ・前年度の体力テストの課題を解決するために、「栗林ピックアップ月間」を設ける。10月11月にチャレンジ活動、12月1月に長縄跳び、2月にマラソン活動を行う。
- ・目標をもって取り組めるようにするために、長縄跳びやマラソンの記録を掲示したり周知したりする。
- ・教員が用具の準備をする時間等を活用し、縄跳びや鬼ごっこ等、体ほぐしをする時間を設定（5分程度）し、運動時間を確保する。
- ・冬季限定で、昼休みのボールゾーンをサッカーゾーンとして開放する。

【目標】

- 新体力テストの、20mシャトルラン、上体起こし、長座体前屈、ソフトボール投げの平均記録が県平均以上の学年を増やす。
- 運動の楽しさや魅力を知り、運動に親しんでもらえるような取り組みを行う。
- 学校評価における児童アンケートの運動に関する肯定的な意見の割合を、90%以上にする。